

産業 「広島県の伝統工芸」

熊野町の筆作り

熊野町は、160年以上の長い歴史のある筆作りの町です。江戸時代の終わり頃、有馬（現在の兵庫県）や奈良で筆作りを学んだ人たちにより筆作りが始まりました。

明治時代に入り、学校ができるようになり、熊野町では筆作りが盛んになっていきました。

熊野町の人たちは、さらに努力し技術を高め、質の良い筆を作ることができたので、熊野筆として全国に知られるようになりました。今では1年間（2006年（平成18年））に、約1000万本の毛筆を作

っています。これはお金に直すと、約45億円になり、日本での生産量の約80%にもあたります。

熊野町には、116の筆を作る会社があります。そこでは習字に使う毛筆のほかにも、絵をかくための画筆、化粧に使う化粧筆などが作られています。これらの筆は、筆司と呼ばれる筆作りの技術者によって、手作業による昔から伝わった方法で作られています。また、熊野町には、伝統工芸士に認定された19名の筆司がいます。



伝統工芸士には、12年以上筆作りをしていて、高度な伝統的技術や技法、必要な知識を身につけ、試験に合格した人だけが認定されるんだよ。



1 筆の作り方

どのように筆作りをしているのか工場に見学に行きました。

《毛組み》

筆先にするための材料を選び、使う場所によって長さや質をそろえます。



〔毛組み〕

《火のし・毛もみ》

毛に灰をまぶし、火のしをあてシカ皮に巻いてもむことで、毛の油や汚れを取り除きます。



〔火のし・毛もみ〕

《すん切り》

毛の長さをそろえます。

《ねりませ》

毛を薄く伸ばし、折り返して混ぜ合わせます。

《糸じめ》

根元を麻糸でしめ、焼きごてで焼き、しめつけます。



〔のりがため〕

《のりがため》

のりを、穂首（筆先の毛の部分）にふくませ、糸でのりを取り、形を整えます。



「のりがため」に挑戦してみたら、糸を巻きつけ、のりを取るときのカの入れ方が難しかったよ。

筆を作っている人のお話

筆作りは、長年の経験や細かな技術が必要です。特に難しいのは毛組みです。注文された筆を頭に思い浮かべ、筆先の場所によって材料を選び、長さや質の違う毛を組み合わせる大変細かな作業です。材料の毛を確実に見分けられるようになるには、数十年の経験が必要です。材料の毛に含まれる油や汚れを取り除くための火のし・毛もみの作業も大切です。毛を切りそろえ、もみがらの灰をまぶし、熱くした火のしを当てます。火のしを当てる時間や温度は、毛の種類によって微妙に変えなければなりません。熱いうちに毛をすばやくシカ皮に巻き、毛を折らないように注意しながらていねいにもみこみます。注意と根気のいる作業です。このように筆作りは大変な作業ですが、よい筆ができあがり、お客さんが喜んでくださったときには、とてもうれしく思います。筆作りは、全てが手作業で高い技術が必要なので、一人前になるには長い経験が必要です。これからもみんなに喜ばれるよい筆を作っていきたいと思います。

2 原料はどこから

筆の原料になる毛や竹は、どこからくるのか調べました。穂首には、ヤギ、馬、タヌキ、鹿、イタチなどの毛を使います。これらの毛は、主に中国やカナダなどの物を使います。また、軸になる竹は、岡山県、島根県、兵庫県や韓国、中国などから送られてきます。



〔筆の原料となる毛〕

3 製品はどこへ

できた筆はどこへ行くのか調べてみました。一本一本ていねいに作られた筆は、会社(問屋)に集められ、種類ごとに分けられます。それぞれの会社(問屋)は、注文によって全国の筆問屋や文房具の卸売り店などへ筆を送ります。また、工場直営のお店で売ったり、個人の注文によっても売ったりします。送るときは、一本ずつキャップをはめ、箱に入れ、筆が傷まないように気をつけています。こうして、筆は、東京都、大阪府、奈良県など全国に送られていきます。



〔店に並べられた筆〕

4 がひつ けししょうふで 画筆, 化粧筆

画筆は一年間に約1200万本(2006年(平成18年)), お金に直すとおよそ25億円にもなります。これは、日本の生産量のおよそ85%にあたります。作られた画筆は、日本国内の他に、北アメリカ, 東南アジア, ヨーロッパの国々にも送られています。

化粧筆は一年間におよそ2800万本(2006年(平成18年)), お金に直すとおよそ40億円にもなります。これは、日本の生産量のおよそ90%にあたります。できた化粧筆は、画筆と同じく、北アメリカなど外国にも送られます。

このように、熊野の筆は、日本国内だけではなく外国の人々からも、その良さが認められ使われているのです。それは、古くから伝わってきた熊野筆作りの技術が画筆や化粧筆にも、生かされているからです。



〔画筆〕



〔化粧筆〕

〔資料などをいただいたところ〕

- 筆の里工房 こうぼう <http://fude.or.jp>
- 熊野筆事業協同組合 <http://www.kumanofude.or.jp/>
- 熊野町役場 きかくか 企画課



広島県内には、熊野町の筆以外にも、たくさんの伝統工芸品があるよ。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/denntoutekikougeihinn/>